

「ボランティア養成セミナー」

1. 参加者

募集人数	応募者数	参加決定数	参加者数
30名	36名	34名	34 (京都：14・滋賀：7・愛知：1・大阪：3・福井：9)

2. 事業内容（概要）

◆ねらい

- ・ 青少年野外教育施設等でのボランティア活動の役割について理解を深める。
- ・ ボランティア活動に対する意欲を高める。
- ・ 当施設でのボランティア活動に必要な知識や技能を習得する。
- ・ 文科省「青少年体験活動総合プラン 小学校長期自然体験活動支援プロジェクト 自然体験活動指導者養成事業」における「補助指導者養成」を行う。

◆期日・期間

2011年5月3日（火）～ 2011年5月5日（木） 2泊 3日

◆後援・協力団体

福井・岐阜・愛知・滋賀・京都各府県教育委員会

◆参加者分析

- ・ 過去に実施した当自然の家の企画事業の参加者が高校生となり、当時の青年リーダーにあこがれて5名の参加があった。
- ・ 県内の野外教育施設に、ボランティアの基礎的知識・技能を研修してもらうよう依頼したところ、6名の参加があった。
- ・ 当自然の家ボランティア活動の大半をお世話になっている佛教大学生は、昨年日程の関係で新入生の参加ができなかった。そのため、今年度は新2回生11名の参加があった。

◆ 企画のポイント

	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	
5月3日（火）			受付	開講式	講義 「青少年教育の理解」	昼食・休憩		実習 「体験から学ぶ」				夕食・休憩	講義 「ボランティアの意義」		入浴 情報交歓		就寝
5月4日（水）	起床 洗面 など	朝食	実習 「救命救急法」			昼食・休憩		実習 「シーカヤック」				夕食・休憩	講義 「ボランティアの理解」 「施設の現状」		入浴 情報交歓		就寝
5月5日（木）	起床 洗面 など	朝食	実習 「野外炊事」					閉講式	※ 希望者 実習 「スノーケリング」								

講義：「青少年の理解」・実習：「体験から学ぶ」

講師 (株)プロジェクトアドベンチャー ジャパン 杉村 厚子 氏

講義：「ボランティアの意義」・講義：「ボランティアの理解」・実習「野外炊事」

講師 びわこ成蹊スポーツ大学教授 中野 友博 氏

実習：「シーカヤック」

講師 グランストリーム 大瀬 志郎 氏

実習：「救命救急法」

講師 若狭消防署 救急救命士 宇野・前田・仲野 氏

- ・機構のカリキュラムが講義・実習の輪切りにならぬよう、また講師の指導が単発にならぬよう、期間を通じての「学びの視点」を意識してもらうことを目指した。そのため、初日に体験学習法についての理解を深めるよう企画した。
- ・全体のコーディネート役として、事業評価委員にもお願いしている中野友博教授を招致し、講義・実習をつなげることをお願いした。

◆運営のポイント

- ・講師同士が集まって打ち合わせすることが不可能なため、事前に事業のねらいや進め方について綿密な連絡をとり、期間を通じての流れを作り出すよう心がけた。
- ・講義・実習をつなげることをねらいとして、担当職員がつなぎ役として意識的に解説を加えることとした。
- ・参加者同士の自由な語らいの場を重要視し、全日程を2泊3日とするとともに、プログラム進行にゆとりを持たせるようにした。

◆安全管理のポイント

- ・企画事業で子どもたちを参加者として迎えていることを想定し、実習からだけでなく日常空間でも安全を意識してもらうよう促した。

3. アンケート結果

(1) アンケート

参加者	4	3	2	1
事業全体をとおしてどうでしたか	77%	23%	0%	0%
この事業のプログラムはどうでしたか	80%	20%	0%	0%
この事業の運営はどうでしたか	82%	15%	3%	0%

4 満足 3 やや満足 2 やや不満 1 不満

(2) 参加者の声

- ・日常生活では得ることのできないことを多く学ぶことができ、大変有意義でした。
- ・自分自身でボランティアを見直してみると、ボランティアって結構難しいと思った。
- ・昨年この事業に参加したが、毎年違う形で学べるので、すごく良い経験になりました。
- ・毎年来ていても、やはりまだ気づけていないところがたくさんあると思った。実践から学ぶことの大切さを、改めて実感した。
- ・参加者としての目線でみることはなかったので、とても良い経験になりました。〇〇で何を学んだのか、そういうことは考えていなかったのも、自分の成長にもなったと思っています。
- ・今まで参加者として遊んでいましたが、逆の立場になると、いろんなことを考えなければならぬので大変です。
- ・大学生の参加者は、回生が上がることや役割を担うことによって、とても頼もしく感じました。
- ・先輩方や職員の方々の一言一言が、私にとってとても貴重な言葉でした。

4. 成果と課題

(1) 成果

- ・講義に加え当施設でのボランティア経験者からの体験談も交えたことにより、役割等について理解を深めることができた。
- ・「活動を体験する」より「活動を支援する」ことを意識して研修を進めたことにより、ボランティア活動への意欲を高めることができた。
- ・当企画事業で実施する可能性の高い活動をプログラムに入れ、講師から安全指導等活動を支援する視点を中心に指導をいただいた。そのことにより具体的な動きをイメージすることができ、意欲を高めることができた。
- ・講師がプログラムを進める中で、ボランティア経験者からの体験談を紹介するように設定された。職員に近い立場での役割・子どもたちに寄り添っての役割などを紹介され、様々な視点でボランティア活動を捉えることに有効であった。
- ・主に「キッズ海の探検隊」「海の自然学校」を想定し、「野外炊事(カレー)」「シーカヤック」の実習を行った。講師には、活動に直接必要な知識・技能に加え、子どもたちの動きを想定して配慮すべきことも指導していただき、有効であった。
- ・外部からプロジェクトアドベンチャージャパンの杉村厚子氏・グラスストリームの大瀬志郎氏・びわこ成蹊スポーツ大学の中野友博氏の3名を招いた。それぞれの講師には全体のねらいと関わりお任せする時間の位置づけを綿密に打合せをしたことで、「はっきりと指導する方針が定まり指導しやすかった」と講評頂くことができた。
- ・毎年お世話になっている中野先生には、お任せした時間だけではなくプログラム全体のコーディネートもお願いした。常に一本の筋道を意識した発言を繰り返して頂き、参加者にとっての学びを深化させることができた。

(2) 課題

- ・23年度教育事業の概要を案内することで、意欲を高めることができた。しかし、大学の定期試験日との重なりが多く、実現に向けては厳しい状況が予想される。24年度は、期日設定に十分な配慮をしていきたい。

5. 活動の様子

《体験から学ぶ》



《シーカヤック》



《野外炊事》

